



## 上杉ただし (日本共産党)

- 1.障がい者福祉と包摶社会の実現に向けて
- 2.UR団地建設と団地再生について

- 問 障がい者支援施設の利用者の入浴支援回数が週2回とされている理由について伺う。
- 答 清潔保持のための支援については、浴槽を使用しての入浴だけでなく、シャワー浴やタオル等での体の拭き取りのサービスを提供している。
- 問 強度行動障害支援者養成研修は年3回行われているが、募集受付は年1回であるため、研修回数に合わせて3回実施するよう東京都に要望してほしいがいかがか。
- 答 幅広い人材が適切な研修を受講できる機会を確保していくことは重要。強度行動障害支援者養成研修の受付回数を増やす取組みについても、対応を図っていきたい。
- 問 旧東永山小学校跡地に建設されるUR賃貸住宅について、現行の家賃と同額で住み続けられるよう措置を講じることをURに対して強く求めてほしいがいかがか。
- 答 URとしては、移転が必要となる方へ家賃上昇を一定程度抑えるための減額制度を設けている。本市としても、住民ニーズ等について、URへ伝えていきたい。



## 本間としえ (公明党)

戦後80年・被爆80年、戦争の悲惨な記憶を次世代に語り継ごう

- 問 多摩市独自の平和意識調査を求めるがいかがか。
- 答 来年の平和展アンケートに設問を加える等検討する。
- 問 平和教育の教材に、広島のバーチャルリアリティ(VR)映像を借り入れる等デジタル技術を活用してはいかがか。
- 答 VR映像を新たな教材として各学校に紹介していく。
- 問 平和展のガイド役等、広く若い世代にボランティアを募り、平和の語り部育成を求めるがいかがか。
- 答 学習のフォローバックや人的リソースを考慮し検討する。
- 問 教員研修と児童生徒の校外学習先として、東京大空襲・戦災資料センターの見学をしてはいかがか。
- 答 市内小中学校や教育研究会へ同センターを紹介する。
- 問 「微力だけれど無力じゃない」を合言葉に平和紙芝居研究会KPKA(クプカ)は、良質な紙芝居を通して平和の語り部になろうと呼び掛けているが、市の認識を伺う。
- 答 KPKAの活動趣旨・目的は多摩市の平和啓発事業と目的を共有するもので、今後も共に平和をつくり、守るパートナーとして連携・協力を図っていく。



## しらた満 (青空りっけん)

- 1.交付金制度のあり方と自治体の自立性について
- 2.教育の生成AI活用について

- 問 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金は令和6・7年度合計約2億1千3百万円で物価高騰の影響を受けた生活者や事業者へ支援すべき。他市は農業、中小企業資金繰り、子ども食堂、ごみ袋等に公付。多摩市はなぜ幅広く交付しないか問う。
- 答 支援策を事業者や関係部長等と検討して決めた。
- 問 コンサルタント費用(50万円以上)は令和5・6年度合計4億70万円も支払われ、その選定理由、成果や費用対効果等を市民に見える化すべき。その是非を問う。
- 答 費用対効果の見える化は難しい。成果に達すれば検査合格とし支払う仕組み。国の仕事も多すぎる。
- 問 小学校体育館空調調整備に続き、中学校体育館の遮熱・断熱等の改修工事が不可欠。どのようにするのか問う。
- 答 国の動向を見ながら着実に進める。
- 問 市の生成AIの試行ガイドラインは整備されようとしているが、教育委員会のガイドラインの作成について問う。
- 答 市試行を受け、多摩市教育委員会が生成AI活用の管理利用基準を定め、教育用ガイドラインを作成し検証を行う。

